Creative Enzymes®

ヒト由来トランスグルタミナーゼ7、組換え型

Cat. No. NATE-1737

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	トランスグルタミナーゼ7は、プラスミドpCRII-hTGz cl.14上のTGM7遺伝子に基づいており（ダニエル・エシュリマンによって単離された）、位置1169にCが□入されて修正されています。N末端にはヘキサヒスチジンタグが融合されています。
用途	トランスグルタミナーゼ7は、タンパク質やペプチド中のグルタミン残基から一次アミンへのアシル転移反□を触媒します。例えば、ペプチド結合グルタミン残基のアシル基をペプチド結合リジン残基の一次アミノ基に転送することによって、タンパク質間のε-(γ-グルタミル)リジン結合の形成を行います。トランスグルタミナーゼ7は、免疫沈降にも使用されることがあります。
別名	トランスグルタミナーゼ; EC 2.3.2.13; 80146-85-6; トランスグルタミナーゼ; ファクター XIIIa; フィブリノリガーゼ; フィブリン安定化因子; グルタミニルペプチド γ-グルタミル転移酵素; ポリアミン トランスグルタミナーゼ; 組織トランスグルタミナーゼ; R-グルタミニルペプチド:アミン γ-グルタミル転移酵素; タンパク質-グルタミン γ-グルタミル転移酵素; TG1

製品情報

種	人間
由来	大腸菌
外□	白い凍結乾燥固体。
形態	トランスグルタミナーゼは、50 mM トリス-HCl pH 8から凍結乾燥されています。
EC番号	EC 2.3.2.13
CAS登□番号	80146-85-6
分子量	81 kDa
純度	> 90 %（SDS-PAGEによる視□的）
活性	> 1000 U/mg [活性は、Lorand et al. による N,N-ジメチル化カゼインへのトランスグルタミナーゼ触媒によるモノダンシルカダベリンの取り込み後の蛍光□強速度を測定することによって決定されます。Anal. Biochem. 44 (221-231)。]
活性化因子	10 mMのCa2+を加えてトランスグルタミナーゼを活性化します。
単位定義	1 Uは、1 a.u./minの蛍光強度の□加として定義されます（Cary eclipse 蛍光分光光度計、Varianで測定; λex = 332 nm, λem = 500 nm; バンドフィルター = 5 nm; □出器強度 = 600 V; 温度 = 37°C, アッセイ体積 = 1 ml）。

使用法とパッケージング

包装	250 µg
再構成	分析証明書に記載された分注の水の量を凍結乾燥粉末のバイアルに加えます。固体が溶解するまでバイアルを優しく回転させます。再構成後、溶液は短期保存のために氷の上で冷却する必要があります。

保管・発送情報

保存方法	-20°C以下で保管してください。作業用アリコットは-20°C以下で保管してください。繰り返しの

保存方法	-20 ℃以下で保管してください。 作業用アリコートは -20 ℃以下で保管してください。 繰り返しの凍結と解凍を避けてください。 常温での配送が可能です。